

西脇市消費生活センター

☎22-3111(防災安全課内)

No.167

チケット転売トラブルにご注意!

来月は「ラグビーワールドカップ2019日本大会」、来年には「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」が日本で開催予定です。そこで、今後増加する恐れがある「チケット転売に関するトラブル」を防ぐためのポイントをまとめました。

①チケットは公式販売サイトで購入しましょう
インターネット検索で上位に出てきた海外の転売仲介サイトから購入してしまうケースがあります。

②転売チケットを購入する場合は規約で転売が禁止されていないか確認しましょう

規約によってはチケットが無効になったり、入場できなくなったりする恐れがあります。

③不正転売をしないようにしましょう

令和元年6月14日から「チケット不正転売禁止法」が施行されました。もし、急用や急病で行けなくなったときは公式リセールサイトを利用しましょう。

◎ネット購入はクーリング・オフができません。
解約はサイトの利用規約に従うこととなります。

◎インターネット掲示板やSNS等で知り合った見知らぬ相手との個人間取引には、大きなリスクがあります。注意しましょう。

あぐりコラム 5

西脇市では黒田庄和牛や山田錦、イチゴなど全国に誇れる地域食材が生産されており、さまざまな農業振興施策を推進しています。このコラムでは、本市の農業に関する旬な情報をお伝えします。

■問合せ 農林振興課(市役所内線322)



夏バテ予防が期待できる旬の野菜

夏バテ予防には旬の夏野菜を!

夏は気温の上昇に合わせて、夏バテや熱中症に注意しなければなりません。旬の野菜には、その季節に必要な栄養素がたっぷり含まれているといわれています。さらに、夏野菜に多く含まれる水分やカリウムは代謝を促し、熱のこもった体をクールダウンさせることで、暑さで崩れた体調を整えてくれます。

例えば、トマトは細胞の老化を防ぐ抗酸化作用のあるビタミンAとCが豊富で、酸味のクエン酸やリンゴ酸などは、疲労回復に有効に作用します。また、ナスの紫色の皮には、抗酸化作用があるといわれるポリフェノールが含まれており、疲労回復を助けるとされています。他にもゴーヤは消化不良やストレスによる胃の痛みにも効果があるといわれており、ズッキーニには体の免疫力を強化するカロチン、貧血予防に効果があるとされている葉酸が含まれています。

今年の夏は旬の野菜を存分に楽しみ、暑さに負けない体づくりを心掛けませんか。



▲「保育士等キャリアアップ研修」も兼ねた幼保交流研修

好きです!! にしわき わたしのふるさと

心紡いで 彩り豊かな人財の育成

～誰もかふるさとに誇りと愛着を持ち、輝いて生きる 共生社会の実現に向けて～

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

就学前教育・保育の充実を目指して

― 職員の資質向上への取り組み ―

西脇市では、より質の高い就学前教育・保育を目指して、研修や情報提供などを行う幼児教育センターを設立し、保育士等のキャリアアップを目的とした幼保交流研修やこども園訪問などを実施しています。

専門性の高い幼保交流研修を実施

平成27年度に始まった西脇市幼保交流研修は、西脇市の就学前教育に携わる全ての職員を対象に、毎年10～15回研修を実施しています。

平成29年度に設立した幼児教育センターでは、就学前教育アドバイザーとして研修を計画・実施しています。また、昨年度からは「保育士等キャリアアップ研修」も兼ねており、研修は専門性の高い内容となっております。

今年度は幼児教育研修として8回(こども園と幼稚園の公開保育、保育実践)、特別支援教育研修として4回、保健衛生・安全対策研修として3回の研修を予定しています。各園の職員は研修を通じて参加者同士の交流や意見交換を行いながら、就学前教育・保育の実践に関する理解を深めています。

カリキュラムの浸透に向けた取り組み「こども園訪問」

市内全てのこども園で共通の就学前教育・保育が受けられるように策定した「就学前教育・保育カリキュラム」の浸透に向けて、幼児教育センター職員が各こども園へ訪問し、実際の保育を見ながら幼児に対する関わり方や環境づくりなどの相談や話し合いを行っています。

さらなる資質向上を目指して

市では、本年度から学識経験者や特別支援コーディネーター、小学校関係者らの第三者が、こども園・幼稚園を年間2回訪問し、それぞれの就学前教育・保育の取り組みの検証・評価を実施します。それぞれの園の良さを発揮し、さらなる資質向上を目指していきます。

▼問合せ 幼保連携課(内線562)

心のスケッチ

125

人権教育課コラム

8月にあなたは主人公になる

今年も身近な生き方を見つめ直すことを通じて人権を考える「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間の季節になりました。

西脇市では兵庫県と連携する中で、昭和46年8月に「差別を許さない市民運動」を始めた。その後、昭和53年からは「差別をなくそう市民運動」として、全ての市民が同和問題について正しい理解と認識を深め、お互いの人権を尊重し、部落差別の無い明るい社会の実現を目指す取り組みが展開されるようになりました。さらに、平成16年にはさまざまな人権課題の解決に向けて、人権尊重の考え方が日常生活に自然と定着するように「人権文化をすすめる市民運動」と改称しました。

現在では「咲かそう!人権文化の花を西脇の地に」を合言葉に、市内各会場で講演会やイベント、人権作文の朗読やポスター展示などを行っています。さらに、街頭啓発活動や啓発資料ゆきちゃんからのメッセージ広報版、横断幕、懸垂幕の作成など、さまざま

な取り組みも行っています。かつて西脇工業高校の校長を務められた堀井隆水さんは、自身の著書の中で、次のようなことを書かれています。「誰もが日常の中の生活様式・行動様式といった生活文化を見直す中で、差別につながる生活文化に気づき、それを改める訓練を重ねていくことで、自分自身の生活文化が豊かになり、結果的にあらゆる差別を生まない生活文化を創造することができると。」

西脇市がこの50年余りにわたって進めてきた一人一人の人権が大切にされる社会の実現を目指す取り組みは、まさに人権文化の花で市民の日々の暮らしを彩ろうとするものです。毎年、人権標語・ポスターの作品制作に関わる児童生徒、保護者が3,000人、講演会への参加者が1,300人、そして他の催しも含めると4,000人をはるかに超える方にこの運動に参画いただいています。「8月の人権文化をすすめる市民運動」は、まさに市民の皆さんが主人公なのです。(人権教育課)

市長からの手紙

西脇を元気に!!

67

西脇市長 片山象三



市民の皆さまとともに! 活力あるまちを目指して

風物詩となった「都麻乃郷あじさい園」が7月上旬まで開園されていました。年々来園者数は増えており、今年は1万5千人の方に来園いただきました。大阪や京都から大型バスで来園された方もあったと聞いており、西脇市の観光スポットとして、確実に定着していると実感しています。地域一丸となり支えていただいています津万地区の皆さまには、改めて感謝申し上げます。



新庁舎・市民交流施設は令和3年5月供用開始予定

かねてより市民の皆さまにお知らせしておりますように、西脇市は50年ぶりに市役所と市民交流施設(市民会館)を建て替えます。先日、一般競争入札を実施し、65億2410万円で工事請負契約を締結することができました。計画している市民交流施設では、600席を有する多機能ホールや多目的室、軽運動室などを整備する予定であり、市民の皆さまとともに文化芸術活動や健康増進活動に取り組んでいきます。また、ラウンジ空間やカフェ、ルーフガーデンなど、多世代が集える居心地の良い空間も整備していきます。この整備事業が起爆剤となって、「東の拠点」としてまちがにぎわい、「西の拠点」のみらいえとともにまちに活力が湧き、西脇市が大きく変わることを期待しています。みんなが誇れる「元気なまち西脇市」をともに創ってまいります。

